



特集

齋藤市長就任 ～新たな矢板市政へ～

4月10日（日）に行われた矢板市長選挙で、三つどもえの選挙戦を制し、元県議会議員の齋藤淳一郎氏が初当選を果たし、18日（月）には、多くの市民や職員が見守る中、市役所に初登庁しました。



齋藤 淳一郎 (43 歳)

昭和 47 年 矢板生まれ
大田原高校卒
早稲田大学大学院修士課程修了
平成 9 年 県職員
平成 23 年 県議会議員
妻、長女、次女と 4 人暮らし
趣味 旅行 (海外、国内)

特集 齋藤市長就任 ～新たな矢板市政へ～

齋藤淳一郎氏が市長に就任しました

任期満了に伴う矢板市長選挙は、4月10日(日)市内20カ所の投票所で投票が行われ、新人候補者の三つどもえの激しい選挙戦を制し、元県議会議員の齋藤淳一郎氏が初当選を果たしました。これにより、市政58年の歴史の中で、最も若い市長が誕生しました。

翌11日(月)、市役所において、市選挙管理委員長から齋藤市長に当選証書が付与されました。



18日(月)には、市役所前で大勢の市民や職員たちに迎えられ、初登庁しました。その後、就任式に臨み、集まった職員を前に、次のようにあいさつしました。

「国の地方創生では、地方の自主性を最大限尊重するということが強調されており、今まで以上に自分たちの頭で考えて、自分たちで行動するという、行動原理が求められていると思います。公平公正で中立的な市政運営を心がけるとともに、市民や職員の皆さんと同じ目線で、ふるさと矢板の未来を必ず切り拓いていく所存です。皆さんにも、『子どもや孫が帰ってくるまちづくり』についてご理解いただき、その実現に向けてぜひともお力をお貸しくださいようお願い申し上げます」



就任にあたって

今回の市長選挙におきまして、多くの市民の皆さまのご支援をいただき、矢板市長に当選することができました。また65.92%という投票率は前回選挙を上回り、近隣の首長選と比較しても高い数字となりました。このことは、市民の皆さまの期待の表れであると責任の重さを痛感しています。

私は昭和47年生まれの43歳です。矢板生まれの矢板育ちですが、私の同級生の多くは、就職や結婚といった人生の節目をきっかけにしてふるさとを離れ、矢板市外に家を建てて子育てをしています。このことが、矢板市の人口が長年伸び悩み、そして近年、本格的な人口減少局面に入ってきた大きな理由だと考えています。

そこで私は、今回の選挙を通じて、「子どもや孫が帰ってくるまちづくり」の実現を訴えてまいりました。

「子どもや孫が帰ってくるまちづくり」は、お子さんやお孫さん、子育て世代のためだけの取り組みではありません。私はむしろ、最大の高齢者福祉になると考えています。矢板で生まれ育った子どもたちが子育て世代になって矢板のまちに戻ってくる、そしておじいさん・おばあさん世代と触れ合えるような地域社会を築いていくことが、あらゆる高齢者福祉政策の基礎になると思うからです。

そして、その実現のためには、「矢板市内で安定した仕事をつくる」「矢板市内への新しい人の流れをつくる」「矢板市内で結婚、出産、子育ての希望をかなえる」といっ

た取り組みを積み重ねていくが必要だと考えています。

私は、この「子どもや孫が帰ってくるまちづくり」によって、矢板市の人口増加に最後の挑戦をし、親の世代から受け継いだふるさと矢板を、より賑やかにして、明るいまちにして、次の世代にバトンタッチしていきたいと願っています。

国の「地方創生」では、地方の自主性を基本とする、最大限尊重するということが強調されています。ですから、これからの矢板市役所にはこれまで以上に「自分たちの頭で考えて、自分たちで行動する」という行動原理が求められます。そして市民の皆さまには、そのお知恵をお借りしながら、時には進んで汗を流していただく機会も増えてくるかと思えます。さらに市内の民間企業、団体の皆さまには、その民間活力をもっともっと矢板のまちづくりに注入していただき、「小さな市役所でも大きなサービス」実現にお力を貸していただきたいと思えます。

43歳という年齢での市長就任は、県内25の現職市町村長の中では最年少で、また矢板市の市制施行以来、最も若いということ。人生80年時代といわれる中で、まだまだ若輩者ですが、矢板市民の皆さまのご指導、ご鞭撻いただきながら、市民の皆さまと同じ目線で、ふるさと矢板の未来を切り拓いてまいりますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

矢板市長 齋藤 淳一郎

遠藤忠市長・大森敏教育長が退任されました

4月15日(金)、長きにわたり、市政発展のために、ご尽力、ご指導を賜りました遠藤忠市長とともに、大森敏教育長が退任式を終えられ、多くの市民、職員たちに見守られながら、市役所を後にされました。

長い間、大変お疲れさまでした。



遠藤 忠市長

平成16年4月から3期12年間、第14～16代矢板市長として市政を担った遠藤忠市長(75歳)が、4月16日(土)に任期満了を迎え、退任しました。

遠藤市長は、就任以来、「子育て環境日本一」を目指して、各種施策を着実に進めてきました。

遠藤市長は退任にあたり、次のように述べました。「3期12年、実にいろんなことがありました。今日を迎えられたのは、みなさんのおかげだと思っています。ありがとうございました」

大森 敏教育長

平成16年7月から通算で9年3カ月間、教育長として矢板市の教育行政を担った大森敏教育長(68歳)が、4月15日(金)、退任しました。

大森教育長は退任にあたり、次のように述べました。「これまで、教育を尊重するまちという考えのもと取り組んできました。これからは、一市民として協力していきたいと思っています。ありがとうございました」